Special Interview

横松盛人氏は25年間の教員生活を経て、平成19年に宇都宮市議会議員に初当選、その後平成23年に栃木県議会議員に挑戦し、今年度は県議3期目の最終年となります。今回はQ＆A形式で、県議生活12年間における特に最近の盛人氏の活動実績について、本人より直にお話しを伺ってみました。

教員の確保対策

年々厳しくなっている「教員の確保」は先生がずっと取り組んできた課題ですが、ついに制度が変更されたそうですね

横松　栃木県の教員採用試験を受験できる年齢が、60歳未満まで可能となりました。つまり事実上、年齢制限は撤廃されたんです。他県では10年以上前から実施されていました。受験年齢を上げて多様な経験を持つ人材や、やる気のある教員志望者に門戸を開いたことは大きな一歩だと思います。

多様な人材にチャンスを与えるって画期的なことですね

横松　多様な人材確保という点で、教員の採用に当たり「海外でのボランティア活動や海外での経歴を加味してほしい」という提案をしてきました。その結果、青年海外協力隊参加者等に対しての特別選考枠が出来たことも画期的です。

それともう一つ、採用試験で落ちて、非常勤講師などとして学校現場で働いている人がいます。現場に出ると再試験にむけての勉強は正直難しい。そこで一計を案じ、学科試験で一定の点数を取りながら不採用で、非常勤講師などとして公立校に勤務している場合は、翌年は学科試験を免除にしました。

コロナ禍における学校活動

コロナ禍のなか、子供たちにも多くの制約を強いた2年半でした。こういった状況を先生はどう見ていたのでしょうか

横松　コロナということで、部活動も学校行事もダメという感じで、一時は本当に心が痛みました。修学旅行はね、経験するとしないで卒業していくのって、全く意味が違う。だって修学旅行って、一生に1度きりでしょう。京都や奈良に行かなくても、例えば県内一泊でもいいだろうと、そういう議論をするべきです。大事なことは教育は止めない、活動は止めないということ

と。どんな状況でも、何ができるかを考えれば道は必ず見つかります。

コロナ禍では、企業には行政より様々な支援がありました。学校現場は見えにくいですが、横松先生が行政に支援を働きかけたと伺っています

横松　国の方から各都道府県に下りるコロナ関連の予算があって、ほとんど企業支援に使われましたが、学校支援に充てても良いことになっていました。なので「予算を少しだけ教育の方にまわしてもらえないか」と進言し、修学旅行をコロナウイルス感染拡大の影響でキャンセルした場合、切符や宿のキャンセル料を保護者の積立金から支払うのではなく、行政のコロナ予算から払うようにしました。

国体後を見据えたジュニア育成選手の強化

先生が以前から訴えていた国体後の栃木のスポーツ振興に関わることですが

横松　僕は県の陸上競技協会の会長をやっていますが、中学校の卒業時に優秀選手として表彰される子たちの多くが県外の高校へ進学し、その後はほとんどの子が戻って来ません。栃木に帰ってこない理由は、そういう選手を受け入れる企業がないからです。

そこで国体を開催するにあたり、成年選手を県内の企業で受け入れてもらうため「成年選手雇用対策委員会」を立ち上げて、数年がかりでスポーツ選手を受け入れてくれる県内企業を開拓したんです。20回以上の委員会開催と企業訪問、全国の主な大学を訪ねて「優秀な選手をぜひ栃木県に就職させて欲しい」とお願いしました。

力のある有力選手に栃木の企業に就職してもらい、今後彼らが栃木県代表として活躍していく場を作ったわけですね

横松　今回の国体は、今後の本県のスポーツ振興を見据える大事な大会になると思います。例えば、今回素晴らしいスタジアムを作ったでしょう。問題は国体後、あれだけの施設をどう有効活用するかです。

何か計画があるのでしょうか

横松　議会でその件について発言して、国体後に同じような大きな大会を誘致する仕組みを今、スポーツ振興と地域振興の点から考えてもらっています。さらに、令和5年の6月に東日本実業団の陸上競技大会の開催がすでに決まっています。栃木県で初めてですよ。立派な施設があるのだから、そういう大きな大会を定期的に開催できる県になってほしい。そのための仕組みづくりです。

ひきこもり対策

コロナ禍で拍車がかかり、急増しているという話を聞きます

横松　栃木県も「ポラリスとちぎ」というひきこもり相談の支援センターを作りましたが、「電話相談が何件増えた」だけでは不十分だと思います。本来は社会への一歩を支援するのが目標ですから。

今、私の妻が、日光市で長く働いていない人や、短期間に離職をくり返している人の支援を行っていますが、昨年は10年以上ひきこもっていた人も含め、9人を支援し7人が仕事を始めています。

すごい！どんな方法論で社会復帰まで持っていったのでしょう

横松　電話相談だけじゃなく実際に来ていただき、一緒にいろんな体験だったり活動をします。そうすることで自信がついて、じゃあ仕事してみようかなと。重要なのは向き合い方ですね。

ある時期、教育現場でも「やりたくなければやらなくていい」という風潮

がありましたが、それは少し違うと思います。学校だと不登校な子に行け行けって、そう単純な登校圧力は駄目だけれど、かといって、行かないことをよしとするのが正しいのか、ということです。

社会復帰した皆さんは、その後どうしていますか

横松　妻は10年以上ひきこもりの支援をしてますが、昨年の例に限らず、概ね7割が就職し9割が仕事を続け、5年10年続いている人も少なくない。対人不安を口にする人が多いわけですが、実はそういう人たちで就業先に接客を選ぶ人も少なくないですよ。

とても興味深い事実です

横松　失った自信は、失ったものからじゃないと取り戻せないんだね。だから違うことで補っても、それはごまかしで本質的な自信回復にはつながらない。見ていて、なるほどなと思いました。

大谷地区の開発

最後に先生の地元である大谷地区の開発について、進ちょく状況をお聞かせください

横松　（仮称）大谷スマートインターチェンジの当初の計画は、大谷パーキングへの接続が有力でした。でも僕が議会で「パーキングじゃなくて、この大谷街道への本線直結型にしてほしい」と提案したんです。本線直結型は水戸や高崎、成田、白河、坂戸など、「こういう先例もあるから」と説明して。今年9月の開通予定でしたが延期になり、あと3年ほど先になりますが。

洪水対策はどうでしょうか

横松　令和元年の姿川の洪水で、大谷地区が大変な被害にあいました。以来、僕も洪水対策を訴えて、いま国道293号沿いに調整池を作っています。来年度完成予定で、川の水量が増えた時、水をいったん逃がすための施設です。田川の東横田地区でも地域の声をもとに堤防強化事業を行いました。

河川の拡幅工事も進んでいますね

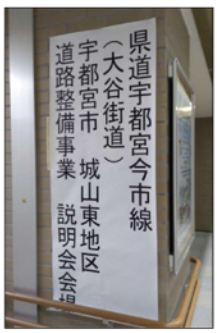
横松　今、大谷橋が架け替えられていますが、大谷橋南工区の工事が終わったら、橋から上流を拡幅していく予定です。ただし、この区間は川と道路が密着しているので工事が難しい。どういうふうに作っていくかを、今検討中です。

大谷もどんどん進化して、ワクワクしますね

横松　道路整備が整って、スマートインターができるわけだから、そういうインフラを上手く活用して、大谷資料館以外にも人を呼ぶ何か目玉になるようなものがどんどん増えて欲しいですね。大谷らしさのあるものね。

同感です。大谷はハイテクな駅東とは異なるキャラで進んでほしいです。自然や農業や史跡を活用した大谷独自の町づくりに期待します。本日はありがとうございました。

（聞き手　横松盛人後援会　恩田澄江）



横松盛人より、ごあいさつとお願い

日頃より後援会の皆様には大変お世話になっております。私の原点である教育現場を、より良いものに改善したいという一心で市議会から県議会へ挑戦し、早いもので12年目を迎えました。多くの方々の支えもあり少しずつですが、私の考えていたことが形になってきた手応えを感じております。しかし、まだ道半ば、そして来年は統一地方選挙です。皆様から審判が下される年となりますが、横松盛人は初心を忘れず走り続けます。どうか引き続き、変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

令和4年9月吉日

もりとの活動報告

―今年は国体開催年です。コロナ禍のなか、課題を一つ一つ解決しながら、若者のスポーツ活動を止めることなく開催できたことは大きな成果でした。―

未来の横綱候補、本県出身の竹田章一郎くんを激励

宇都宮市出身の竹田章一郎くんは県内の小中学校を卒業後、埼玉県の高校へ進学し、高校相撲界の東の横綱と言われる実力者となりました。高校卒業後、常盤山部屋への入門が決まり、四股名「若ノ勝」としてのお披露目と祝賀会へ佐藤栄一宇都宮市長と駆けつけました。

今後も本県の若者が夢を持って未来へ挑戦できる環境を整えます。

様々な対策と工夫で、多くのスポーツ大会を止めずに実施

- ■ミヤラン
- ■宇都宮トレラン
- ■インディカ大会
- ■全日本都市対抗テニス大会
- ■関東中学校駅伝競走大会
- ■銃剣道競技大会
- ■ライフル射撃大会
- ■関東高校陸上競技栃木大会
- ■関東陸上競技選手権栃木大会

開催できたことは大会会長として嬉しい限りです。

関東高校陸上競技栃木大会を無事開催することができました。未来を担う若者の躍動する姿は感動的です。

全日本都市対抗テニス大会において、はじける笑顔の参加者たち。上野みち子参議院議員が会長を、横松が副会長を務めています。

スポーツを活用し、地域活性へ

国体に向けて整備された施設の今後の活用について、検討するよう求めてきました。令和5年には具体策が示され、本県で広域的な大規模大会が開催される準備が整います。

来年6月、本県初「東日本実業団対抗陸上競技大会」がカンセキスタジアムで開催されます。

横松盛人事務所

☎ & 📠 028-652-5272

✉ yokomatsu@morito.name

〒321-0345 宇都宮市大谷町 2002-2

県政へのご意見・ご要望お待ちしております

横松もりと 検索

この県政レターは、見やすさに配慮したユニバーサルデザインです